

[課題演習概要]

障害のある児童が豊かな人間関係づくりをするための授業づくりの考察
—ソーシャルスキルトレーニングの手法を取り入れた仲間づくりについて—

小 田 彩 夏

Ayaka ODA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
教職教育高度実践力プログラム

(2024 年 1 月 10 日受理)

キーワード：人間関係，ソーシャルスキルトレーニング，SST，特別支援教育，ペップトーク

1 研究の目的

本研究は，交流学級に行くと受け身になる姿や発表になると自信がなくなり固まってしまう場面が多々ある児童を対象としている。そこで，自閉・情緒障害特別支援学級の児童の人間関係を広げるためにソーシャルスキルトレーニング（以下 SST）の手法を取り入れた授業づくりを実践する。そのうち本研究では，ペップトークとソーシャルスキルモンスター（以下 SSM）を活用した授業づくりのよさを明らかにすることを目的とする。

2 研究の計画

S 小学校の自閉・情緒障害特別支援学級の 2 年生 3 名に対し，SST の手法を取り入れた検証授業を前半 5 時間，後半 4 時間行った。

	実践内容
前半	①ペップトークについて説明をする
	②教師がつくったペップすごろくを実践
	③すごろくのルールを 1 つ考えさせる
	④すごろくのルールと指示内容を児童に考えさせオリジナルペップすごろくをつくる
	⑤ペップトークのよさを振り返らせる
後半	①SSM について説明する
	②SSM を攻略するためのアイテムを考えさせる
	③小集団でゲーム形式の活動をさせる
	④小集団でゲーム形式の活動をさせる

3 研究の内容

(1) 人間関係づくりの重要性

子ども達は，学校という小さな社会の中で様々なことを学び，卒業後はもっと大きな社会の一員として生きていくことになる。しかし，自閉・情緒障害特別支援学級の児童は，特に人間関係づくりに関する課題が多く，豊かな人間関係を築くことが難しい。

これらの特性から，自閉・情緒特別支援学級の児童は，「他人との意思疎通に関わることや対人関係，社会生活への適応などの困難さを改善・克服を図る」自立活動の指導が特に必要とされている。

(2) ソーシャルスキルトレーニングの有効性

ソーシャルスキルとは，「対人的なこと」あるいは「人間関係に関すること」を意味し，SST とは，人間関係に関する知識や具体的な技術やコツを総称したものである。

ソーシャルスキルの研究で佐藤ら（1988）は，ソーシャルスキルが向上すると，仲間からの社会的受容も良好になることや仲間との協調的な行動が増加すると報告している。さらに戸ヶ崎（1995）は，ソーシャルスキルの不足が引っ込み思案や攻撃行動，向社会的行動の不足など児童の学校でのストレス反応と関連しているとされている。

このことから，人間関係づくりを特に困難としている自閉・情緒障害特別支援学級の児童の指導において SST を取り入れることは，課題の改善・克服につながり学校でのストレスも軽減することで，落ち着いて学校生活を送ることにもつながる。

(3) 授業実践の概要

まず前半（6～7月）は、児童の実態から自分のいいところや相手のいいところ、自分の発している言葉に目を向けることが人間関係づくりの土台になると考え、ペップトークを活用した学習指導を行った。ペップトークは前向きな言葉であり児童が言われてうれしい言葉である。検証授業では、ペップトークをより日常で活用しやすいように、すごろくにしてペップトークの考え方を取り入れた。そしてゲーム中は、児童が無意識に発したペップトークとブppetトーク（うれしくない言葉）を指導者が書きだした。それを毎授業の最後に振り返り、使っていた言葉とその時の気持ちについて考えさせた。これらを繰り返すことで、児童同士がそれぞれのよさに気づき、自然とペップトークが増えていった。

次に後半（11月～12月）の実践では、SSMを行った。前半では、自分や相手に目を向けたため、後半では自分の課題を克服しつつ、実際に友達と関わっていくための活動を取り入れた。SSMとは、場面や状況によっておこる児童の問題行動に名前とイラストをつけて視覚化し、イメージしやすくするサインである。児童に関わる課題意識をモンスターとして外在化することで、自分自身の課題を客観視することができ、自己肯定感を下げることなく課題と向き合うことができる。

検証授業では、導入段階でSSMの名前や特徴、いたずらの背景などについて紹介した。背景を踏まえて紹介することで、児童は自分とモンスタを重ねて自分の状況を客観的に見つめることができ、自分の課題に気づくことができた。しかし、SSMを知り攻略方法を考えるだけでは、日常場面に生かすことは難しいと考え、展開部分でゲーム形式の小集団活動を行った。第3時間目の活動では、荒れた川と火山に潜むモンスタを攻略するためにロールプレイを行って攻略方法を実践したり、攻略して手に入れたアイテムを使って3人で協力して崩れた橋を直したりした。また、児童が動画やゲームが好きなことから、SSMが出てくる設定を物語調にし、教室環境をゲームの世界観のように工夫して行った。最終授業では、敢えて3人をバラバラにして課題を解決することを通して、友だちの存在の心強さや大切さに気づかせる機会をつくった。最後は3人でそれぞれ手に入れたパズルのピースをはめて魔王を倒した。回を重ねるごとに子ども達は状況を冷静かつ客観的にみることができるようになり、「今〇〇モンスタがいる」など友だちの状況を説明する場面も見られた。

4 成果と課題

本研究の成果として2つ挙げられる。1つ目は、ペップトークを使うことで楽しく友達と関わることができるということに児童が気づくことができたことである。児童は、感情のままに言葉を発することも多く、傷つけるつもりはなくてもトラブルに発展することも多かった。しかし、ペップトークの授業を繰り返すことで、相手や自分の発言に意識が向き、相手のいいところを積極的に伝えられるようになった。また、児童の話の中で交流学級の児童のいいところを話す姿も見られ、交流学級の児童にも視点が広がっていることを感じた。

2つ目は、児童の課題をモンスターとして外在化したことで、意欲的に課題克服へと取り組む姿が見られたことである。教師側も、「～して！」ではなく、「〇〇モンスタが出ているよ！」と声掛けすることができ、児童もその言葉でどうすればいいのか考えることができるようになった。また、小集団活動では、考えを出し合い、互いに尊重しながら取り組む姿が見られた。授業の最後には、「もっとしたい！」「次はどんなモンスタが現れるの？」などの言葉も聞くことができ、課題克服への意欲も高まったと考える。

課題としては、これらの方法を児童の実態に応じて継続的又は断続的に実践していくことである。今後交流学級の仲間たち、卒業後の社会生活へつなげることができるのかこれからも考えていく必要がある。

主な引用・参考文献

- 一般財団法人日本ペップトーク普及協会 PepTalk for Teachers
- 佐藤正二・佐藤容子・高山巖 1988 「拒否される子どもの社会的スキル」行動療法研究, 13
- 戸ヶ崎泰子・秋山香澄・嶋田洋徳・坂野雄二 1995 「中学生の社会的スキルが友人関係と学校不適応感に及ぼす影響」日本教育心理学会第37回大会発表論文集, 557
- 小貫悟（監修）・イトケン太郎（著）2021 「子どもが思わず動き出す！ソーシャルスキルモンスタ」株式会社東洋館出版社
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 2022 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について
- 文部科学省 特別支援について 4. 障害に配慮した教育 (7) 自閉症・情緒障害